

## 7/20-26 #6 ヨハネの務めにおける三一の神の分与:

I. ヨハネの文書の主題は、全宇宙の実際、中心、内容です。それは三一の神がご自身を彼の選ばれた民の中へと分与して、彼らの命また命の供給とし、彼らをみな神聖にし、完全に彼を表現させて永遠へと至らせることを願っておられるということです。このことは私たちの実際、私たちの中心、私たちの内容でもあるべきです。II. ヨハネの文書は、神聖な三一が、神聖な行動の中で、また私たちの経験の中で、ご自身を私たちの中へと分与することを啓示しています:

A ヨハネ14:6は言います、「私は道であり、実際であり、命である。私を通してでなければ、だれも父に来ることはない」。私たちは目標としての御父に到達しようとするなら、道である御子を通して御父に到達しなければなりません。B 7-14節が示しているのは、御父が御子の中に具体化されて、信者たちの間で見られること、すなわち、御子は信者たちの間で御父の具体化であることです。これらの節で、主は私たちに、彼が御父の中におり、御父が彼の中にいることを示しました。御子と御父は一です。彼らは相互に内住しています。C 15-20節が続けて示しているのは、御子とその霊として実際化されて信者たちの中に住んでいること、すなわち、その霊が御子の実際化であって信者たちの中に住んでいることです。D 目標としての御父、具体化としての御子、実際化としてのその霊は、容器である私たちの中にいます。目標、具体化、実際化は、土の器である私たちの中にある卓越した宝です。

E ヨハネ14:21と23節が示しているのは、御子をご自身を彼の愛する者たちに現すこと、また御父が彼と共に御子を愛する者たちの所へ行行って、御子と共に住まいを造ることです。1 目標としての御父は、具体化としてのイエスの中にいます。この具体化は、彼の実際化としてのその霊の中にいます。この実際化は、今私たちすべての中に住んでいるその霊ご自身です。しかし、私たちは、私たちに對する主イエスの現れを日ごとに、時間ごとにさえ享受しているかどうかを尋ねる必要があります。2 私たちは、私たちに對する主の現れを失うかもしれませんが、このことは私たちが自分の内側に住んでいるその霊を失ったことを意味するものではありません。その霊は常に信者たちの中に住んでいます。3 自分の救いを失うことがあり得ることを信じている人たちは、実は「エレベーターの救い」を信じているのです。エレベーターが上がる時、彼らは救われます。それが下がる時、彼らは救われていません。4 しかしながら、私たちの救いはエレベーターではなく、「階段」であって、私たちは決してそこから取り除かれることはありません。私たちはこの階段にいますが、階段の最上部の祝福を享受し

たいのです。5 私たちは「最上階」にいたいのであって、「地下」にいたくありません。こういうわけで、私たちは主イエスを愛して、「主イエスよ、あなたを愛します」と言う必要があるのです。私たちは彼を愛するとき、最上階にもたらされ、天にあるすべてのものを見ます。

6 私たちが彼を愛するとき、彼の霊が私たちの中に住むだけではなく、彼ご自身がご自身を私たちに現します。これが意味するのは、私たちが私たちと彼との交わりの中で愛する方の臨在を持つということです。

7 私たちがイエスを愛するなら、イエスは私たちを愛し、御父も私たちを愛します。御子をご自身を私たちに現すとき、御父は彼と共に来て、私たちと共に住まいを造り、私たちと共にとどまります。8 私たちは、ますます私たちに對する御子の現れの中へともたらされ、また御父と御子が私たちと共に住まいを造ることを必要とします。私たちは主を愛することによって、主の救いの階段を上って行く必要があります。9 そうすれば彼はご自身を私たちに現し、そして御父と御子は私たちと共に彼らの住まいを造って、私たちに享受させます。F 信者たちに対する神聖な三一の神聖な伝達が、ヨハネ16:13-15において啓示されています:

13 しかし彼、すなわち実際の霊が来る時、あなたがたをすべての実際へと導く。なぜなら、彼は自分から語るのではなく、彼が聞くことを語り、来たるべき事をあなたがたに明らかにするからである。14 彼は私の栄光を現す。それは、彼が私のものから受けて、それをあなたがたに明らかにするからである。15 父が持っておられるものはすべて、私のものである。

1 この伝達はちょうど電流の伝達の様です。電気のスイッチが入るとき、電流、電気の動きがあり、その動きが伝達です。2 第一に、御父が持っているものはすべて御子のものです。3 第二に、御子が持っているものはすべて、その霊によって受け取られます。4 第三に、その霊が御子から受け取ったすべては、信者たちに明らかにされています。5 最終的に、神聖な三一であるすべて、神聖な三一の持つすべては、私たちのものとなります。詩歌382番の3節は、この伝達について語っています。a「御父が持っておられるすべてはあなたに受け継がれ、あなたの『である』すべてはその霊に集約されました。その霊はあなたの実際として私の霊に入り、あなたを私の経験とならせます」。

b この伝達は、御父から御子へ、御子からその霊へ、その霊から私たちへの伝達です。これが私たちの経験のための神聖な三一の動きです。III. 私たちはヨハネによって供給されたキリストを見る必要があります。それは命としての三一の神を私たちの三部分から成る存在の中へと分与するためです。A キリストは初めにヨハネによって神として供給されました。この神

は命の源であり、また永遠の命であって、命の水の川として流れます。**B**ヨハネによれば、キリストは永遠のロゴス、神を定義し、説明し、表現する方です。**C**キリストは神のひとり子であり、この方は言、命、光、恵み、実際によって神を明らかに示しました。**D**キリストは永遠の命、神の神聖な、非受造の命です。彼は時間において永続するだけでなく、性質において永遠であり、神聖であって、それは彼の永遠の分与のためです。**E**キリストは、その霊を与える方です。その霊は、私たちに届く三一の神です。三一の神が私たちに届くとき、神はご自身を私たちの中へと分与します。**F**私たちのキリストは人の性質をもつ人の子です。彼が人の子であるのは贖いのためであって、私たちの罪を取り除き、私たちと神との間の問題を解決して、神が私たちの中へと分与されるようにします。**G**ヨハネはキリストを神の小羊として供給しました。贖う小羊は神を命として人の中へと分与するためです。**H**小羊として、キリストは私たちの罪のためのなだめです。主イエス・キリストはご自身を私たちの罪のために、犠牲として神にささげました。それは贖いのためだけでなく、神の要求を満たすためであり、こうして、私たちと神との関係を和らげました。このゆえに、彼は神の御前で私たちのなだめのための犠牲であるのです。**I**キリストは、御父と共にある私たちの弁護士です。「弁護士」を指すギリシャ語は、他の人のそばに呼ばれて助ける人を指しています。ですから、助け手です。それはまた、法律上の助けをする人、あるいは他の人のためにとりなす人です。ですから、弁護士、助言者、あるいは仲保者です。**1**啓示録12:10-11によれば、サタンは昼も夜も神の子供たちを訴えています。彼らは小羊の血のゆえにサタンに打ち勝つことができます。**2**サタンは私たちが汚れており、聖ではなく、不義であると訴えるかもしれませんが、父なる神はこう言うでしょう、「サタンよ、義人イエス・キリストを見よ。私の子供たちは良い弁護士を持っている」。**3**私たちはサタンに、「黙れ! 何も言うな!」と告げなければなりません。それから私たちは小羊を賛美して、「小羊にハレルヤ! 血のゆえにハレルヤ!」と言う必要があります。**4**私たちが「ハレルヤ」と叫ぶとき、命が再び私たちの中へと分与されます。私たちの弁護士であるキリストは私たちに対する訴えを顧みています。それは命の分与が継続的に行なわれるためです。**J**私たちのキリストは、アルファであり、オメガです。キリストはギリシャ語のアルファベットの最初の文字アルファであり、最後の文字オメガであり、またその間にあるすべての文字でもあります。それは無尽蔵に命を分与するためです。**K**キリストは、最初の者また最後の者であって、永遠に存在する、変わることはない方です。**1**環境がどれほど苦しめ

るものであるとしても、主は同じままです。何も彼に先立つことはできず、何も彼の後に存在することはできません。**2**万物は彼の管理の制限の中にあります。キリストはあらゆるものとあらゆる場所を占有しています。**L**キリストは、初めであり終わりです。初めとは、彼が万物の起源であることを示し、終わりとは、彼が万物の終結であることを示します。ですから、これは、主イエスの前にも後にも何もないというだけでなく、彼がなければ起源も終結もないことを示します。**M**キリストは、神の創造の初めです。これは、主が神の被造物の起源あるいは源であることを指しており、主が神の働きの不変の、永遠に存在する源であることを暗示します。それは神を彼の選ばれた者たちの中へと分与するためです。このことが示しているのは、回復されて墮落したラオデキヤに在る召会が、源である主を離れることによって変わってしまったということです。**N**キリストは、生きている者です。啓示録1:17-18でキリストは言いました、「私は...生きている者である。私は死んだが、見よ、永遠にわたって生きている。そして、死とハデス[陰府]のかぎを持っている」。キリストは命を分与するために、生きている者であって、召会を生ける神の家としなければなりません。**O**キリストは、聖なる者、真実なる者です。兄弟愛の召会にとって、主は聖なる者、真実なる者です。彼によって、また彼をもって、回復された召会は聖となり、この世から分離され、神に対して真実で忠信となることができます。**P**キリストは、アーメンである方、忠信で真実な証人です。**1**バベルでの混乱は宇宙的な言語を破壊しましたが、「ハレルヤ」と「アーメン」という二つの言葉は破壊されませんでした。「アーメン」は、ただ「そうです」を意味します。**2**アーメンはある種の永遠のしかりです。「そうです」はまさにキリストご自身です。キリストには御名があり、彼の御名はアーメンと呼ばれます-「そうです」-これは命の分与のためです。**3**キリストはアーメン（「確固とした」、「堅実な」、あるいは「信頼するに足る」を意味する）である方であるので、神の証人として、忠信で真実です。**Q**そのような供給されたキリストから、神の子供たちが生み出されて永遠の命を持ち、主の中に住み光の中を歩くことによって永遠の命の交わりにあずかり、油塗りによって教えられ、神聖な種をもって神聖な誕生の美德を享受し、イエスの証し、三一の神の表現としての燭台となり、命の表現として初穂を伴う収穫物となり、彼の増し加わりと満足である小羊の花嫁となります。**R**最終的に、三一の神は、彼の贖われ、再生され、造り変えられ、栄光化された三部分から成る人と結合され、ミングリングされ、合併されて、新エルサレム、三一の神が人の中へと分与することの究極的完成となります。